

# 夢のかけはし



すべての人が救命できる  
社会の実現を目指して

大隅肝属地区消防組合消防副士長。野球を特技とするほか、職場の先輩の影響でキャンプや魚釣り、ロードバイクなど多数のアクティブな趣味を持つ。尊敬する職場の先輩たちとは、24時間勤務後の休みの日も趣味を共に楽しむ。(29歳)

「瞳が輝く子どもたちと共に」のタイトルで発表した「義務教育期間中における心肺蘇生法の普及啓発について」の内容が、全国消防職員意見発表会で最優秀賞をいただきました。この発表会は、消防職員が業務に対する提言や取り組むべき課題を自由に発表するもので、私は勤続7年間で得た実体験を基に話をしました。

消防職員は、業務の一環で救命講習を様々な場所で行いますが、恥ずかしがって本気で取り組まない大人の姿を目にしました。そこで、素直で学習意欲のある子どもの時から段階的に学んでいけば、大人になるときは一次救命処置を全ての人ができる世の中になるのではないかと考え、輝北分署への配属時に、自ら発案し輝北小学校の高学年を対象に計4回の救命講習を実施。子どもたちの反応は良く「勇気の出なかつた数秒が、その人の命取りになるかもしれない。勇気を出してやってみよう」といった感想をいただくなど、児童は自分の想像以上に内容を把握してくれていました。もともと関係者からは、救急医療は子どもには難しいと聞いていました。しかし、子どもたちの反応から、小中高・社会人と段階を踏んで全ての人ができるようになるための意識付けには十分な効果があるのではないかと思っています。

## 全国消防職員意見発表会 最優秀賞受賞者

ほ む り ょ う  
**甫村 亮** さん

野球部で甲子園を目指し練習に取り組んできました。必死で努力してできるようにしても、すぐに超えなければならぬ新たな壁が待っているところなど、消防の業務は野球と似ています。今私が超えたい壁は救急救命士の壁です。救急救命士の資格を取ることでの薬の投与など医療従事者として二次救命処置が行えるようになりま。救急救命士として、搬送者の社会復帰が可能な二次救命活動ができるようになること、消防生士のテーマであるバイスタンダー CPR（現場に居合わせた人が行う心肺蘇生法）の普及啓発を図ることを目標に、今後も自分を高めていきたいと思っています。



【右】中学では野球部寮長、高校では副主将を務めるなど毎日人前で話してきた経験が今回の受賞につながる。

【左】自分自身初めて講師を務めた輝北小学校での救命講習の様子